

主題：キリストを経験し、享受し、表現する

メッセージ 26

ガラテヤ人への手紙において (1)

わたしたちの中にご自身が啓示されることによって

わたしたちを現在の邪悪な時代から救い出す方

聖書：ガラテヤ 1:3-5, 11-16

- I. ガラテヤ人への手紙の主題は、神のみこころにしたがって、そらされた信者たちを邪悪な宗教の時代から救い出すことです——1:3-5. エペソ1:5, 9, 11, 22-23. ヘブル10:5-10. ローマ12:2, 4-5. ガラテヤ6:15. コロサイ3:10:
- A. 時代とは、サタンの組織としてのこの世の区分、面、現在の、あるいは今の現れを指しています。それはサタンに用いられて神の民を奪い占有し、彼らを神と彼の定められた御旨から引き離すことです——エペソ 2:2. I ヨハネ 2:14-15。
- B. 本書の内容によれば、ここの現在の邪悪な時代は宗教の世、この世の宗教の行程、ユダヤ宗教を指しており、それは文字の形式となり、その霊を消して死なせ、人と神との命における交流を殺し、神の新約エコノミーにおけるキリストの福音と競うことです——ガラテヤ 6:14-15. 1:6-16. II コリント 3:6. ピリピ 3:2-3。
- C. キリストがわたしたちの罪のためにご自身を与えた目的は、わたしたちをユダヤ宗教、現在の邪悪な時代から救い出し、引き抜くことです。これは神のみこころにしたがって (参照、I テモテ 1:3-4)、神の選びの民を律法の後見から解放し (ガラテヤ 3:23)、羊の囲いから連れ出すことです (ヨハネ 10:1, 3, 16):
1. 雅歌における予表の啓示によれば、キリストは彼の愛する追い求める者を霊の中へと導き、霊の中で彼との交わりにおいて、彼女は召会から引き離されている場所をどのように離れ、出て行って羊の群れの足跡に従うかの啓示を受けます——1:4 後半-8。
 2. 羊の群れは、キリストが彼の聖徒たちを飼い、牧養し、養う場所としての召会です——ヨハネ 10:16. 使徒 20:28. I ペテロ 5:2。
 3. 主を追い求める者は、自分の満足のために主を追い求めていましたが、救われた罪人に対する主の関心は、ただ彼らの満足ではなく、神の永遠のエコノミーです。神のエコノミーは罪人を救って召会を獲得し、これらの召会の本質が、キリストの有機的なからだとなり、新エルサレムの究極的完成の先駆けとなることができます——ローマ 5:10. 啓 1:11-12. エペソ 1:22-23. 啓 19:7-9. 21:2。
- D. わたしたちは、今日の墮落したキリスト教王国とそのユダヤ的な組織という現在の邪悪な時代に打ち勝ち、すべてを含む命を与える霊を通して、使徒たちの教え (新約) を保持しなければなりません——使徒 2:42. I テモテ 1:3-4:
1. ユダヤ教には地的な祝福を伴う地的な約束がありますが、新約でわたしたちはすべてを含む霊を持っています。彼はキリストの計り知れない豊富の総合計であり、わたしたちの唯一の祝福となって、わたしたちに他の人を祝福させ、その結果、

神の豊満となります—創 12:2. ガラテヤ 3:14. エペソ 3:8. 1:3. ルカ 11:10-13.
12:21. 啓 2:9. II コリント 6:10. エペソ 3:19 後半。

2. ユダヤ教は文字の律法ですが、新約でわたしたちは命の霊の法則を持っています—ローマ 8:2. ヘブル 8:10. ローマ 2:28-29. 5:20。
3. ユダヤ教には仲裁的な祭司がいますが、新約ですべての信者は祭司であって、聖なる王の祭司の体系です—啓 1:5 後半-6. 2:6. I ペテロ 2:5, 9。
4. ユダヤ教には物質の宮がありますが、新約で宮は霊の家、すなわち霊の中にある神の住まいです—エペソ 2:21-22 :
 - a. ユダヤ教で礼拝する者と礼拝の場所は二つの異なる事柄ですが、新約で礼拝の場所は礼拝する者です—ヨハネ 4:24. I コリント 3:17. II コリント 6:16. 使徒 2:46. 5:42。
 - b. 宮で予表される御父の家は、手順を経て究極的に完成された神の神性と人性の合併であり、彼の贖われ、再生され、造り変えられた選びの民で構成されています—ヨハネ 14:20, 23. I テモテ 3:15. 啓 21:3, 22。

II. 神の御子は人の宗教に相對します—ガラテヤ1:11-16 :

- A. 神の心の願いとは、彼の御子をわたしたちの中に啓示して、それによってわたしたちが彼を知り、彼を命として受け入れ (ヨハネ 17:3. 3:16)、神の子たちとなるということです (1:12. ガラテヤ 4:5-6)。
- B. 聖書の中心点は、実行や教理や規定ではありません。それは神の御子の生けるパーソンです。神の御子は三一の神の具体化であり、わたしたちの霊の中ですべてを含む霊として実働化されており、わたしたちが彼を享受し、彼の豊富にあずかり、彼を生きるためです—I コリント 15:45 後半. II コリント 3:17. ピリピ 1:19. ガラテヤ 6:18:
 1. 神の目に、宗教や伝統の余地はありません。ただ生ける神の御子だけに余地があります。神は他のどんなものでもなく、ただこの生けるパーソンだけを顧慮しています—コロサイ 1:18 後半. 2:16-17. 3:10 後半-11. マルコ 9:7-8。
 2. 召会生活の実際また内容としてのこの生けるパーソンがないなら、召会生活でさえ伝統となってしまいます。召会はこのパーソンのからだ、彼の豊満、彼の実際的で生ける表現です—エペソ 1:22-23. 3:8-11, 16-19。

III. 神の御子の生けるパーソンをわたしたちの中に明らかに示し、啓示することほど神に喜ばれることはありません—ガラテヤ1:15前半, 16前半. II コリント3:14-17. 4:3-6 :

- A. わたしたちが神の御子から内側の主観的な啓示を受ければ受けるほど、ますます彼はわたしたちの中に生きています。彼はわたしたちの中に生きれば生きるほど、ますますわたしたちにとってアブラハムの祝福としてのすべてを含む地、すなわちすべてを含む、命を与える霊の祝福の実際となります—ガラテヤ 2:20. 3:14。
- B. わたしたちが自分の観念を下ろし、心を主に向け、霊に注意を払い、霊と祈りの雰囲気において言の中で時間を費やすなら、キリストはわたしたちの中に啓示され、わたしたちの中に生き、わたしたちの中に形づくられます—1:15-16. 2:20. 4:19 :
 1. わたしたちは自分の観念を下ろさなければなりません。あらゆる観念は、霊的な

ものであれ肉的なものであれ、覆いです。この内側の啓示はわたしたちの霊の中にあり、わたしたちの照らされた思いを通してです——Ⅱコリント 3:14-15. 4:4. エペソ 1:17-18. ルカ 24:45。

2. わたしたちは心を主に向けなければなりません。わたしたちが心を主に向ければ向けるほど、ますますこの時代の神はわたしたちの命の中で、またわたしたちの存在の中で立場を持たなくなり、わたしたちは天の光の輝きの下にいて、この生けるパースンの内側の啓示を受けます——Ⅱコリント 3:16, 18。
 3. わたしたちは霊を顧慮し、霊に注意を払わなければなりません——エペソ 1:17. 3:5. 参照、啓 1:10. 2:7。
 4. わたしたちは言を祈り読みし、思い巡らさなければなりません——エペソ 6:17-18. 詩 119:15。
- C. わたしたちは神の御子の啓示に満ちている必要があります。それによってキリストがわたしたちの中に生き、わたしたちの中に形づくられ、わたしたちによってすべてを含む霊として絶えず享受されることによって新創造となります——ガラテヤ 6:14-15。